

1 岐阜県 白川町議会

「インクルーシブ教育について」

保育園の建て替えのため、園児が小学校に同居することとなったのが、そもそものきっかけとなったようだ。当初はとてもうまくいくはずがないと思われたが、小学生と園児の交流は、大人が思うのとは裏腹に、それぞれに良い環境へとつながっていった。平成 11 年には、保育園事務が、学校教育課へと移動し縦のつながりができた。連携のシステムが構築されていった。それぞれの立場で長年にわたり職務に取り組むことで、個人の情報を引き継いでいける。障害者・外国人等、誰一人として取り残さない教育へとつながって行くようだ。

2 愛知県碧南市 複合施設コリン 施設見学

「地域共生社会方針に沿った共生型モデル施設の取り組みなどについて」

スタッフとして外国人を採用するよりは、人件費のことも考え沖縄より採用する。技術を習得して沖縄に帰ってもらうという発想には、驚きと納得があった。保育園児が広い庭で、伸び伸びと遊んでいたのは印象的であったが、高齢者の方が、遠足ということで、不在だったため、触れ合いの場が直接見られなかったのは残念であった。リーダーの方が、何十億も借入をしてまでも、施設を立ち上げ、前進していくことができているのは素晴らしいことだと思った。

3 滋賀県 米原市

「米原駅前デマンド交通について」

駅からデマンド交通がつながっているのは良いことだと思った。箕輪町のみのちゃんバスは駅との連携はできていない。

4 滋賀県 日野町議会

「障がい者福祉。地域共生社会ビジョンのあり方について他」

地域の課題は地域でをスローガンに、すべてのひとが幸せになるように取り組みをしている。役場から 3 分と

いう環境にある「わたむきの里」と行政が連携して、障害者福祉に取り組んでいる。わたみの里は、一人ひとりの働きたいを応援するために、ウエス製造・厨房事業・食品加工事業・下請事業等様々な仕事に取り組んでいる。51歳の女性がキーパーソンで400社と障害者の仕事へと結びつけてきた。

全体を通じて

どちらの視察先でも、キーマンとなる人が中心となって、リーダーシップを発揮して地域と連携して行っていた